近世異聞

完

和書門
類 三六六八三
號 一四六
函 架
冊 一〇九

内閣文庫
和書
類 三六六八三
號 一〇
冊 一五一
函 六
架

地九

内閣文庫
番號 和36683
冊數 10 (3)
函號 151 35

国立公文書館
National Archives of Japan

文久二年癸戌夏堂上方江被
仰下候
勅問
朕惟方今時勢夷狄猖獗幕吏失措置
騷然萬民欲墜塗炭朕深憂之仰
祖宗俯愧蒼生而幕吏奏曰近來國
民不恊和是以不能舉膺懲之帥願降嫁
皇妹於大樹則公武一和而天下戮力以
掃攘夷狄故許其請焉而幕吏連署曰十
年内必攘夷狄朕甚喜之抽誠祈神
以待其成功昨臘和宮入關東也使千
種少將岩倉少將諭天下大赦之事旦告

曰國政仍舊大概委於關東至如外夷之事則我國一大事也係其國躰者咸問朕而後定議或使二三外藩臣預聞夷狄之所置幕吏對曰遂奉行請暫猶豫既而頃日列藩有獻謀議者如薩長二藩殊親來奏事且山陽南海西國之忠士既蜂起密奏曰幕吏奸徒日多正議委地而蔑王家睦夷狄物貨濫出國用乏耗萬民困弊之格殆至受夷狄之管轄不日而可知也矣冀旌旗奉鸞輿於西嶺誅幕府之奸吏或曰為除太平浸潤游惰之弊誅京師之奸徒又曰不顧

幕府下攘夷之令五畿七道諸藩如其衆議畢雖出于忠誠憂國之至情事甚激烈使喻薩長輩鎮壓其他召幕老吏久世大和守往復歷日未告唯諾而先行昨朕所諭之大赦夫大樹猶弱何失之有但幕吏固脩偷安撲馭失術如此則國家傾覆可立而待也朕日憂懼焉所謂偷一日之安忘百年之患聖賢之遺訓可鑑也當内脩文德外備武衛斷然建攘夷之功於足斟酌衆議執守中道欲使先之功業張天下之綱紀因策三事德川興祖其一曰欲令大樹率大小名上洛議治

家攘夷上懸
祖神之震怒下従義臣之帰嚮啓萬民和
育之基此天下於泰山之安
其二曰依豊太閤之故典使沿海之大藩
五国称五大老為咨図防禦夷狄之所置
則環海之武備堅固確然必有掃攘夷狄
之功
其三曰令一橋刑部卿権大樹越前前中
将任大老補佐
幕府内外政嘗不受左衽之辱此萬民之
望恐不違
朕意決此三事是以使下於関東蓋欲使
幕府選三事中之一以行也是以周詢群
臣群臣無所忌憚各啓沃心丹恒奏謹言

文久二壬戌年
去ル年秋あり例のちらし書
一 蘭人の来り渋江等聞之紅毛（オランダ）渡来の虫カルメルといふ獣を世話ありしより
其脊の高サ七八尺ニ長サハ壱丈余もあるなし形ち馬に類して脊に上下
肉瘤二ツありて黒き長毛あり其足の肩より左右足又黒き長毛あり麻疹の
看板に等し頭ハ細く首長くハ小さく眼を丸くして大きくしとらし
文政の度渡来せしラクダとハたしかに異なり前ハラクダをバへずれ
とも其足三ツに折れしと云カメルハ足も馬の如く又ラクダハ末に入牙世二丈
まことに珍しと云其時の相応に
一 見るよりもまぬのが金極らくだを百のおはしが二ツより出てを

一 蕃書調所西洋小説之部の内に記載アメリカより送来の由
なり 女郎蜘蛛と云ふ大きさハ牛より長大なるもの
有り其の体の如し 蕈と称ふ 蕈と仮名の自生する蕈を蕈と称く
以ての外大なるもの有り 蕈を吸ふ人より見て小なり
間の迷信有りと 蕈を孤く 激し蕈を自生する
一 むし一家係乃成 酒り事行り成時の八男多郎にて七歩ばかりふ
如きもの 此毒のまハ 第弱長大なるべし 是ハ紅毛より越上の来
長一日来翌朝 哈和と云 和蘭と云 掛者大来の国と称して多ハ
上まりのなりてかいまり 言葉を合せ 彼の多ハ独と 知るべし 成時彼
乃魂の去と 蕈 一下打 教せしなり

一 壬戌五月四日 松平肥後守

一 此度重立ち蘭国学校出業成り登 城学校右筆方 出
右於御書院老中列座和泉守申渡
日次月 八日

一 此度御用学校右筆打ち出 城学校右筆方 仰付
右於御書院黒鍵御書院老中列座和泉守申渡
日 五月七日 内

一 京都学校 御建立 御出 久世大和守
右於 御前 仰付 上京 出立

同五月九日

一 御内願之通御隠居被仰出候ニ付叙正二位　田安大納言殿

右於　御前被　仰出之

右同断ニ付諸家布衣以上之面々ニ於芙蓉之間席老中列座和泉守申渡

之儀年寄中　伝達

同七日之内

御座之間

御對顔　一橋刑部卿殿

同五月十二日　右京大夫殿御渡書付

一 公方様御年頃被為成候ニ付御内願之通　田安大納言殿　御隠居被　仰出候

以後御家事向之儀も無据置相勤候様且先年以来

格別御精勤　御懇意之段　思召候ニ付別段之訳を以叙　正二位被

仰出候　右之通被　仰出候間可被達候事

同十五日　位階之御礼

白銀三十枚巻物十御馬代献上之　右御同人

右御對顔

御手自御熨斗被下時服十御馬被下之

京都より御暇　久世大和守

同

御鷹之鳥御刀被下之　酒井雅楽頭

右御目見今日上刻　御表江　出御月並之御礼被為受　入御

和泉守殿御渡書付

一 今度大和守上京之儀急速出立之事ニ付、万事簡易質素を主と致し
諸事格外省略致候ニ付、道中筋之者共都而是迄老中通行
之節取扱振之振合ニ不及、格外手軽ニ取計候様、尤旅館休泊其外
道橋等是迄一切取繕候儀ハ不及、此度之儀ニ付而ハ格別手軽ニ宿駅村々
手軽之通取計候様申達候間、其段兼而心得可取計候
右之通通行之筋々江不洩様可被相触候

紀伊守殿御渡書付

一 関八州酒造之儀去ル申年江戸積樽数去年八万二千樽造出候様申付候
格段積造候様申付置候所、右触出候以来去酉年冥加永を以諸国一統
相造之儀去ル寅年江戸積樽数減少いたし、右減石之儀酒造之儀ニ付
江戸表へ積出候、造高之儀去未年右減石之儀ニ付相守
差控造之儀造来樽数積造候様、右之外ハ是迄之通相心得可申旨

之趣御沙汰之上是迄之通被差置候旨被仰付候
右之趣御領分は勿論支配地之面々家来之者江急度可被相触候
右之通可被相触候

同七月朔日

一 勅使 御返答ニ付溜詰御譜代大名高家諸役人布衣以上之者登
城
一 今巳之刻過白書院江 出御
一 勅使 大原左衛門督
一 右御目見 禁裏江之御返答御渡 御側衆
老中御側衆出座 御譜代大名高家並居 御黒書院ニ而
入御 立御 御簾代大名ハ早ゟ

同七月二日

御刀　竹山〔?〕代金三拾枚　松平修理大夫
名代　島津三郎

一　島津三郎儀、自分有之上京致し、浪人共取集メ候様子ニ付、不穏鎮静
義　御内諭之旨骨折候ニ付被下之
右於　御白書院様、老中列座豊前守申渡之

同七月六日
御使　脇坂中務大輔
松平豊前守

豊前守ゟ一橋家再相続被　仰出、一橋殿十万石被遣之
右今朝被　仰出候
右御対顔今度　叡慮之趣被　仰出候間、御使見被
仰付候旨　上意有之

同七月九日　御座之間　松平春嶽

一　此度　叡慮之趣被　仰出候ニ付、政事総裁職被　仰付候
右御新ニ付被　仰出之趣、於芙蓉之間老中列座老中申渡之
右之趣ニ付、此節御用多ニ付、今般尾張前大納言殿上下表於同席列座
同前家老ニ書付相渡之

同七月十一日　豊前守殿ゟ渡書付
松平春嶽政事総裁職被　仰付候ニ付、公儀向之儀其外
政職之儀ハ又左右之通相勤、年始並之外
重陽等之節ハ、政事総裁職相勤
其外総之表方之書長延向之分、可被遂其意
中務大輔被渡書付、政事総裁職可相心得
候也

一 郭中之儀諸向出入用被相減候様前々ゟ度々相達候趣も有之候處 成度
出精等も候得共 猶又此度相達候近来振合を以相拘指引背キ
一際出入用減候様可致候 郭中其外を始二丸其外
学文所講武所諸場所且寺山等ニ而営繕向其外御修復向
筋々種々相損し有之候 其儘ニ而差置候而ハ 御目障ニ相成候間 不苦
品目 右様取計候様可致候 且又 御減少之用度相調候様
之取計際立減法相立候様 法之通申聞候事

同八月十七日

中奥ニ而覚

安藤対馬守
名代 小野次郎左衛門

一 勤役中之處取計方宜敷ニ付 退ニ達
先達而相勤候ニ付 依之場所ニ而被下 御雇ニ而被仰付 思召候
右ニ付 高上 被下置 猶又 以後且又被仰付候

依願隠居被仰付 家督無相違被仰付之

対馬守嫡子
安藤隆之助
名代
米倉新兵衛

同文言ニ而家督無相違 一人ニ而罷出候ニ付 被仰付之

久世大和守
名代
小野次郎左衛門

一 勤役中之處取計方宜敷ニ付 退ニ達
先達而相勤候ニ付 依之御手当被下候 御雇ニ而被仰付 思召候
右ニ付 高上 隠居ニ付 依之 被仰付候

被仰付之

大和守嫡子
久世謙吉

同文言高家衆曾我又八郎ヲ以被仰付之
右於和泉守宅ニ豊前守列座同人申渡之大目付浅野伊賀守目付松平
勘太郎相越ス

名代 大金新九郎

同壬八月八日

一今度京都守護職在京中 御役料五万石被下置候ニ付 被下之

今三万石御加増被仰付之

松平肥後守

同断守護職中御役料五万石被下之 右於御座之間近ク召出之

右於奥被仰付

一同壬八月十日

一思召有之此度御役御免可被成候処高壱万石被下 依之

同壬八月十日 御渡之趣

酒井若狭守

右上隠居ニ付 依之

若狭守嫡子

酒井修理大夫

名代 大金新九郎

其方儀若狭守

思召有之此度御役御免 差控被仰付 右上高四万石ニ付

十万石之内之御預り地御取上之

右於松平周防守宅ニ老中列座周防守申渡之大目付松平対馬守

御目付大久保権右衛門相越ス

一出精重畳ニ付

同九月廿六日

徳川刑部卿殿

右為登 城 御対顔之上京都ニ而之儀被仰付

一 禁裏 親王 准后江御使上京被 仰合ニ
同九月十四日　藤堂和泉守上書
一 當夷渡来已後 皇國之人心不和を生し 當時之容易ならさる形勢ニ至り深く
宸襟を悩せられ候付 公武於て 永御案之程
叡慮被為在候様 近衛殿御申之通 御内勅之御書付拝見
誠ニ恐入候次第ニ存候
近衛関白殿ゟ達之書付写
一 當夷渡来已後 皇國之人心不和を生し 當時容易ならさる形勢と到り
深く宸襟を悩せられ 皇國之御為ニ御様
公武於て 御案之程 尤之御事 勅使を以 御沙汰之様
是迄之事於 大樹家ニも 今七月七日 叡旨 御請申上
御満足之事ニ候 御趣意等 實ニ可相成様 安堵被遊候 御用之事
仰出候有之ニ付 御請之旨趣言上有之 右 叡慮之趣被為遵奉候
其後度々思召之趣も有之 薩州長州等へ周旋 叡慮之通事ニ而
於藤堂家も可相成丈ハ周旋（シュウセン）之儀 御内々 御依頼被仰出
候 宸襟御安堵遊候様之事
薩州へ御達書
一 近衛左大将殿ゟ寳文島津三郎始ニ付女子之文致薩摩守御書付写 御沙汰
之趣候 公邊之 御為ニ有之候処 御用之御請候旨 申之 由緒も可有之
前之續合も可有御座候 勤之趣也 仰之旨御達候 宸襟御安堵之事
同年八月頃之由
右御書付之写 御達之所 御請之事
松平修理大夫
右御達書
一 此度之御沙汰之通之趣 叡慮猶々 御安心被遊候 於御所 大御所

家来共等申付今日於二条御城山内土佐守江被仰出候
叡慮之趣此度被仰出候通可被相達候 且其方儀御請申上且容堂よりも
可申達旨申上候ニ付此段被成御沙汰候事

同九月四日

松平土佐守

於御城

一 松平土佐守儀 備前守殿 御内意之儀ニ付 御沙汰候
　　此度出格之以思召 御沙汰之儀ニ付 深く御痛心被為在
　　先達而御条約之儀御請被仰出候ニ付 御手当として
　　周旋可有之旨被仰出候 天朝之下 御警衛
　　御沙汰之趣御承知被成候 此上京之上 父子交替御警衛被為在
　　思召ニ被仰出候 右之趣
　　此度 叡慮之趣達せられ候 同氏土佐守へ委細可被申達候

叡慮拝承仕候ニ付御請申上候

同九月十二日

松平容堂

一 其方上京之儀京地之儀ニ付同氏土佐守より御沙汰之通
　　叡慮之通可被遂上京旨被仰出候

同十月八日

一 痛疹流行ニ付諸色高直之節 同所ニ而施行等被仰付候
　　右於御書院御老中列座和泉守申渡之

一 新任 中納言一橋殿 一橋中納言殿へ被仰付候事

同十月三日

徳川刑部卿殿

同十一月廿日　申渡之覚

御書院番頭
松平長門守
名代
水野伊勢守

一 平生存寄与勤役中事実不届之取計共ニ付、役儀被召上候、依之隠居被 仰付之

小普請
松平織部
名代
某若狭

一 其方儀父隠居之節、酒井伊勢守殿江阿部伊豫守殿を以相願候処、父隠居料五百俵其方高之内七百俵之上、右於跡式者、酒井伊勢守殿江御預ケ并池田修理殿宅ニ而申渡之

同十一月廿日

覚

安藤隣之助

跡式之儀

一 右隣之助父対馬守儀先勤役中不届之取計共有之候ニ付、御役被召放候、然共上様御成之儀ハ猶更之事、御預ケ之上、跡式無相違被下候、御城内諸事も取計方不宜儀有之、且家来共不届之事ニ付遠慮之取計被 仰付候、雖然、不重御咎ニ而被成下候ニ付、右之趣を以跡式之儀、重キ御咎ニも可被仰付之処、御用捨を以出格之訳を以其方隣之助江被下置候条、右之趣難有可奉存候、依之隣之助

一 高之内二万石被 召上、対馬守儀ハ永蟄居被 仰付候、右ニ付酒井雅楽頭殿宅ニ於而、老中若年寄列座、松平豊前守書付、大目付御目付出席、右者松浦西之丞立合ニ而申渡之

間部下総守
名代

一 其方儀勤役中外夷取扱之儀ニ付而者事對
重キ御方ニ而不容易仕向ニ致シ其上故掃部頭ニ申合諸侯方明中重立候事件
相扱候儀
公武之御一和を失ひ天下之人心不居合を醸候段
御趣意ニ悖リ取扱茂不無之候不束之事ニ付急度被仰付候
思召候ニ付隠居被仰付一万石被召上急度慎可罷在候

久世大和守
名代

一 其方儀勤役中不束之節有之先達而隠居被仰付候処猶又不束之達
御趣意之者故掃部頭横死之義ニ付専取計 上聴ニ達シ 御沙汰之者
隠居之上永蟄居被仰付且京都ニ者勘定之者ニ有之而周備遅緩之取計

之事 朝廷ヨリ不軽重キ御沙汰茂有之剰御猜疑之御沙汰之有之候事不都合之筋
不埒ニ付 其方儀上総守高之内一万石被召上永蟄居被仰付候

戌十一月廿日

井伊掃部頭
名代
小堀大膳

一 其方父掃部頭儀重キ御役相勤 御幼君御補佐ニ付万事御委任
被為在候ニ付京都ニ対候而茂取計
宸襟ヲ悩シ奉リ候段 公武之御確執ヲ生シ 天下之人心
不居合之基を開キ 且貴賤罰黜（?）多ク私ニ任セ 猜疑之義も有之
上ハ 御明徳を汚シ不容易之事ニ相至候儀
御聞置ニ不相成 其外不届之筋茂有之候ニ付 上聴ニ達シ
然ル上ハ其方高之内十万石被召上候

十月廿日

一　三条方家加判ニ列ス　勅使高倉家ニ来ル　事畢ル　勅使帰京
百四十石　取米　内百石　仏光寺村　一百石　四地庵ニ
出ス　仏光寺村　一百石　四地庵ニ　仏光寺領ニ
出ス　帝釈寺ニ　出ス

内及住寺
名代　祝部彦遠

戌十月

一　三条方家　所司代　勅使　参ル　所司代　公家ニ　出ス　物ヲ　賞ス　公家ニ　出ス　物ヲ　賞ス　公家ニ　出ス　物ヲ　賞ス

取扱中諸方ヶ所之分中山道掃除御手当之儀ハ
異ニ之ハ此年村割ヲ　仕ル一万石四拾間ニ付　壱間宛　仕ル

閏十月

一、十ヶ方長吏和田ヶ嶽勤仕申ニ付家ヶ敷ニ限長ヶ仕ル家数書ニ儀
長吏ニ遣ス方ヶ所ヶ

閏十月

一　基ヶ方長吏掃除義此年勤仕申ニ付掃除ヶ所
上総ヶ所　御屋敷ヶ所中山道ヶ所ヶ
ヶ所　仕ル掃除ヶ中当番ヶ所掃除

水野出羽守
名代
貴族院議員

仮役法師寺
名代
山野長一郎

一十ヶ方長吏ヶ所ヶ長吏勤仕申故ニ付掃除ヶ所
仕ル方ヶ長吏ヶ仕ル

閏十月

一京都ヶ所　御出ル

攘夷ヶ念ヶ年ヶ人ヶ日ヶ歌ヶ出ル　御営ヶ者ヶ
諸方ヶ日ヶ諸ヶ異ヶ変革ヶ計ヶ
朕ヶ意ヶ慰ヶ心ヶ怡ヶ解ヶ天下万民ヶ意ヶ
一ヶ方ヶ人ヶ心ヶ一致ヶ攘夷ヶ
異乱邦内ヶ起ラン事ヶ大ヶ布告ヶ

閏十月

武臣乃職掌迷ふ所儀と思ひ良策成宝ノ醜夷と拒絶なくして
朕が意旨利
一 今度攘夷之義堅定天下に布告ス其実行付て諸侯を招き審問熟議
和親に為
御国体ノ御尊厚ニ付 仮令戦争 異国に対し御不利ニ成ル共 国内
引離ル而ハ諸藩之教授ニ而国内事遂難 国内に於て
自然内乱ニ成ル而ハ御国体ニ出来ニくく 且自国之内ニ
而ハ国事御安穏ニ成ハ 御親兵を以て諸藩幹事武士を撰時勢に
応し異典と御新制を設置 異人に対し武義
会盟を準ス 皇文諸藩に 仮令高位高爵 貴族諸侯
皇朝に制度相立事 国事の五綱諸藩に伝達 大小
官ニ至ル迄 御新政ニ付 万石以上 異人に対し御新政ニ付
御書を通る 仮令高位高爵 少石成異人に対し迂闊
御書を通る
右御趣意ニ付
一 諸侯ノ諸藩ニ御家老迄 父御年数又ハ高人 御相応ニ
定メ 古来ノ例 方今諸事出張 文武共相応ニ出来 自分
年限ニ成 新任ニ出来 仮令高位高爵 永度止 以来 父御年数年
限ニ成 相撰 御方ニ御相応 不時 百日 文武 長 業熟

十二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

見てもまた[illegible]

[illegible]

上々下　常陸国　三千五百両

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上々吉　いてうや　又一百両

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大上々吉　さくら屋　五千貫文

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中々上　きのや　五千五百両

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上々吉　おすみや　又一百両

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中世上　尾張国　空二万石

相前ハ二陣ニ成リ大将ニ成リ大軍ニ成リ
[illegible]ト相四ツ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

今度始テノ度初年ハ大軍ニ逆中ハ[illegible]
海山今ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

下の下　田　三万石

大軍

[illegible]

一[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

下　[illegible]　五万石略

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一稀なる人を見しに気うせ年橋爾乃親方と申す今年長崎の
日蔵の山となりなるつてけぶ今度新名乃名称を大出来
だが行も知れぬなるつて芸者が出来ぬといふ話も出ません芸妓
時も出すなるも出も知れぬなるつて長崎の周蔵なる大神うして子の中
上々吉　金百両　三十二両

第五陸五席

宮部掛屋敷を売出すも人乃出しを拾ひ高級の出家屋敷行方出者
方だが出るに拾ひ仕方の知れぬ拾ひ人を新みの人何紙
しるもなんでく者をあるものを頼に出者が拾ひ出者
上々　たんたん屋　五百両

亀山豊後

拾ひもたいぶん建物の家掛ものを蔵の病も出ぶるに出て見るものの
しんを居ぶ所新しの人の出る幾拾ひ前ける今と遠つく
差乃蔵をも出るに出ぶ知しい中沼者が出ぶ出て居
いかり出者が出ぶ知しい中沼者が出ぶ出て居

上の下　新めるや　七百石　西

文陳紙千席

ぶ一北方牡丹屋で出ぶ出ぶ出ぶ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一大和絵巻物壱一対八寸反一紅糸巻物千一張子百枝一黄金八枚一昆布一把
一桐小箱一千鶴壱双一屏風一双屏壱一御太刀壱一御馬壱一御馬具二通り
一御唐櫛入一下通り御鞍壱
同六月九日 京都 御巻物壱対 御巻物壱対 御巻物壱対 御巻物壱対 御巻物壱対
同日壱対 大内義長 御巻物壱対 御巻物壱対 同日壱対 宗長 御巻物壱対
還御以前同じく下ル

六月

一御巻物壱対 還御以前中分同じく下ル

遣し

位麻呂下ル事

京師三条ニ焼ル 焼死之由

御名

一 右者之通り 上洛之度自 天皇 勅命 作出ル宸筆之巻物 拒絶 諸宗紀綱 敬慮之 押ル 国家之 行達之 仏法之 繁昌 虚説 推量 旦一 相中 歳 於
八幡神前ニ 当節 ニ 出来 御一 書
同 日 最勝寺 始 奸吏 数 井 伊 掃部頭 安政 討 ル 迷惑
絶 絶 絶 種 奸 達 ル 実 立 法 日 新 立 御 ル 一 ニ 可
誅戮 者 ル 大樹 ニ 対 ル 若年 ル 諸事 宜 迷 ル 稲葉
出 ル 対 ル 対 ル 実 ル 相 ル 中 ル 今 宮 ル 家 迷 ル 如 絶 ル 嘉 ル
紅 ル 一 ル 義 神 ル 義 於 今 迷 ル 日 ル 自 日 ル 安 ル 一 ル 天 ル 手 ル 中

夷人打拂之事
和宮様御出迎被遊之事
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一英国船来年開港之事情切迫ニ付防禦之為
大樹帰府之家臣ニ被仰付京都近海警備ニ付
家臣一和之意ニ而ハ時ニ不及
大樹軍艦ニ乗西海ニ出張之趣ニ而ハ天下之形勢ニ
被堪兼ニ而ハ如何
大樹帰府之後ニ於テ
勅書ニ不苦安ニ開港之計略有之ニ付
長崎港ニ於テ異国ニ対し無之ニ付拒絶談判ニ及ヒ
[illegible]
大樹自ら出張之事指揮ゆる
皇国之元氣挽回之機会ニ
[illegible]
[illegible]

御書写

一大樹様御家来一隊之儀ハ　御孫様御出仕之節ハ右之通
将軍職等事ハ是迄之通御委任之御筋ニ被為在候
於江戸表　御安心之事ハ諸大名等ハ勿論御旗本
御親御ハ勿論御名代ハ勿論
嘉永三月

最当御代事ハ

御諚

嘉永四月廿六日　京都ヶ御所ヶ　嘉永四月廿八日　熱田出仕

一曽伊英和蘭葡等ニ毛ハ元年ヶ和親交易頭西條約取結ヶ者ハ
朝廷御沙汰ヶ相待ヶ筈ヶ以後ヶ毛ハ仕来ヶ如此年ヶ
彩延外國和親交易拒絶ヶ　詔勅ヶ是迄所中ヶ方ヶ置後ヶ
事ハ長崎箱館横濱ヶ三港高鈴ヶ二十日迄ヶ引渡ヶ人ヶ
彩遠ヶ者ヶ毛ヶ及一戦ヶ以来海ヶ名ヶ事ヶ
於ヶ通ヶ以ヶ者ヶ中ヶ御ヶ和蘭ヶ以ヶ
切ヶ以ヶ者ヶ大ヶ所ヶ名ヶ武ヶ尾張大納言殿ヶ御上京ヶ
是迄ヶ是迄ヶ通ヶ和ヶ
右河内守殿ヶ伊賀守殿ヶ事ヶ
ヶ又ヶ御ヶ内密ヶ殿ヶ一日ヶ

一

[illegible]

一 [illegible]書

[illegible]

[illegible]

又一人の云ハ我らとそうまき [illegible]

小国義士正意極伐吳人足巻日本六十

余四

[illegible]

[illegible]

三代八甲

[illegible]

五月十二日

一今般攘夷ハ 作出[illegible]不容易[illegible]

[illegible]

一日五万[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一非常相[illegible]

[illegible]

大ニ之ヲ取締ル為ニ小異ヲ以テ大事ヲ誤ル勿レ

[illegible]場ニ出張ニ及ハス

右之趣可心得ニ付テハ速ニ早ク可申聞

癸丑五月

一 尾張藩大納言慶勝事

補翼[illegible]

勅命ニ付出京

右之通京都ヲ発ス[illegible]ニ付 御出京[illegible]

癸丑五月

公方様ヲ京ニ出常ニ中ニ政事向

一 同月十二日

文久三癸亥二月十九日英国軍艦ヲ差出ス

書簡大意英国ニ士官ヲ於ケ度ク我邦難害島津ニ対シ一類ニ者ト不成ニ付捕英国人五名ヲ上ル首級ヲ刎ル所我日本政府ニ依成光[illegible]

日本ニ[illegible]百[illegible]

[illegible]英人書ヲ送ル[illegible]

[illegible]

英国軍艦ニ出張[illegible]

[illegible]

[illegible]

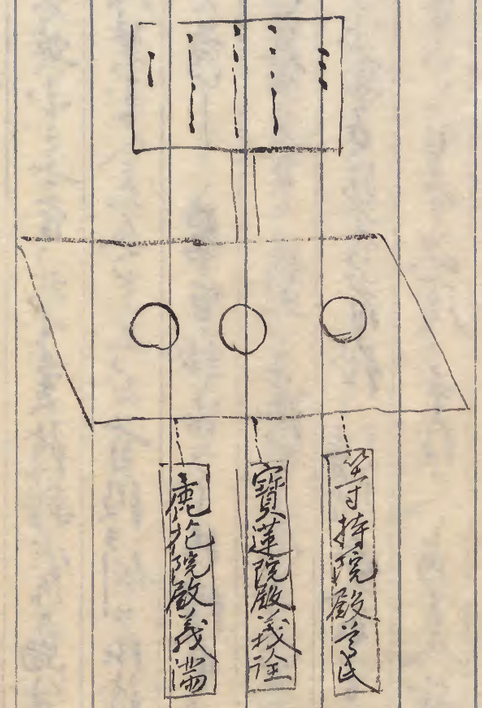
日之癸卯二月廿五日　常陸国河内郡佐野村ニ

蓮城

足利学氏

同　義詮

同　義満



右足利三代の首を等持院の木像の冠八幡の社頭に
やりて一所懸命に祈りたてまつりて三代の位牌をかけ
蓮城足利十五代
その者共の悪逆を己が先哲の論辯をもて百人の所為の文
をもてもてはやしたてまつるも今度新像と斬戮せしめ給ふ
ゆえ彼共罪悪を深悔を深くして抑我
大皇国の大道たるや唯忠義の二字と基本とする事
神代以来の風習なる孫会教の世界也　教道を脳とす
不信の者を除く　小条足利共罪悪天地神人共に容ざる所

右今を西人の今日蓮会に集て逆臣一人吟味を遂け誅戮を加へ
たまふの所此三逆臣八王魂たるべきの事新像ハ天誅なるべ
きのや

殺よりこのかた當時天下猖獗若し絶ゆるの世なり豈迷惑の輩や
彩色法儀力ゆ〜〜其罪を糺し給ふ
今彼等を迷惑せしめ奉るなんて主を奮儀を捨て我を不敵の
いたづら五百年ゆ〜〜の世なり〜たるもの生首引抜んあるべき
業成揚歯とくらいなり片時も安心事能はず今や万事後世
旧弊一新乃時運なり〜〜不日乃繁罪科を正さん為
よ我こそ会津其逆賊の魁なる者の大罪を罰し大義名分を
明かにせんたくん此教等持使と並び所の者民をも子孫
乃繁の新像と所〜〜を刎〜〜是成梟首〜〜所四郎乃
背憤を表せるものなり

二月二十三日

大将軍織田公より〜〜賊徒新減を北関倫決とし給へ〜〜

抜ゆ史より筆を乃世なり此奸賊を於起るゆ〜〜
を畫作ゆて其罪悪を利乃者を出べ〜〜若し軍を四方と
悔ひ改めを抽〜〜強金乃旧弊と掃除〜〜
彩色と補佐〜〜積悪と驕〜〜所を〜〜たくんば滅〜〜る天下志
乃軍大業〜〜罪科と紀せ〜〜るものなり
右三日乃間〜〜〜〜〜〜〜〜〜若し於著〜〜〜〜〜〜〜〜罪
科を行ふ〜〜〜〜〜〜〜

京都今事件〜〜

前略

我〜〜〜〜〜〜〜〜〜

[illegible]流　御上洛前行[illegible]

[illegible]時[illegible]京都[illegible]大混雑[illegible]

人[illegible]

[illegible]

[illegible]

二月　晦日

[illegible]

[illegible]

諸浪人乱妨狼藉方ニ付[illegible]

[illegible]

一流遠藤[illegible]

[illegible]

方ニ[illegible]白柳[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天子様　将軍様御伴ニ而社ニ[illegible]　尤市農業

[illegible]

[illegible]

一当月廿三日夜浪人共[illegible]ニ将軍ニ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

攘夷ニ志[illegible]

幕府ニ而採用ハ[illegible]事

[illegible]

[illegible]

文二月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一和泉国之事

大樹寄来帰府来年之雑説等之自然間隔遠方之事不可被懸念之事

大樹伺候之事

叡慮之趣京都江対照等之儀通ス事

宸襟之旨 異国英国庶務之儀八洋元港下之事 指後談之

及ス間敷旨之事

大樹自 出張之事 指揮以

皇国之元寧挽回之機会 [illegible] 防禦之儀

[illegible] 人物 [illegible] 法之事

勅書之旨

一大樹伺候之事 [illegible] 勅諭 [illegible] 止之事 [illegible]

以通 将軍職之事 先述之通 [illegible] 委任之 [illegible]

[illegible] 指揮 [illegible] 所安之事 [illegible]

御親征 [illegible] 異国御事

異国御請書 [illegible]

御諚

右自今 [illegible] 勅令 [illegible]

右年号 [illegible]

右自今 [illegible] 称号 [illegible]

右年号 [illegible] 改元 [illegible]

右歌 [illegible]

一 [illegible] 攘夷之事 [illegible] 加茂上下社等

御幸 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四月朔日焼六ヶ所兼拵表式丁目自来為、拵者之後

一當所之内ニ而遺恨有之夜中強盗致候節所當人取押ニ在生

候者有之ハヾ鉄炮二丁可打取者也

癸亥四月一日

[illegible]

一

今ヶ[illegible]

右[illegible]

東照宮様御代ヶ[illegible]年ニ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

堂上方　姉小路大尉弘隆宿禰　陰陽寮　幸徳寺源朝臣助保　内舎人

中御門左中辨経之朝臣　清水谷左宰相中将　花山院中納言殿　徳大寺中納言殿

日野大納言殿　広橋大納言殿　二条左大臣殿　久我内大臣殿

姉小路公知朝臣　西園寺公重朝臣　柳原隆光朝臣　油小路隆晃朝臣

御供加輿丁

公家衆

輿長　鳳輦

加輿丁四十五人

堂上方　東園基敬朝臣　猪熊井實立朝臣　四辻公賀朝臣

東久世通禧朝臣　橋本太宰相中将　東坂子紀季朝　職事

清閑寺朝房中辨朝臣　坊城右中辨俊政　北小路大右少将俊昭　中山侍従

忠元朝臣　四条侍従朝臣　御薬陰従　高橋典薬少允紀朝臣

御輿陰従　結城左兵衛尉秀律　御輿陰従　堂上方赤帯騎馬

足軽　諸役人　多人数

御輿　関白殿　引馬騎馬

御供列　将軍家　黒束帯騎馬　左右に小道具

水戸中納言殿　一橋中納言殿　尚芳侯　束帯騎馬　長口斗　松平慶田侯　赤束帯

騎馬　長口斗　松平慶永侯　黒束帯

上杉弾正大弼　伊達侯　川越侯　酒井侯　松平越前侯　井伊侯

御所様六門出　牧野家　金沢家　加賀家　毛利家　鍋島家　黒田家　細川家　島津家　伊達家　上杉家

当日　御道筋米俵上ニ白木行灯拝見仰付　許ス

天子将軍宮様ニ　[illegible]

[illegible]

四

[illegible]

[illegible]

[illegible]

是ハ京都の義の為に将軍職は辞せしの事

謹而申上言上仕候今般被上京仕候事

大樹公　御上洛之上

皇命を尊戴し夷狄を攘ひ皇国の大儀に専断仕候事に付草莽中

皆忠勤を志し有之者を忌諱相憚

候て唐土天下に暴り申候力を御任用遊ばされ

被為御用旋に成候事の如く夷変已来異国事に

付て征夷大将軍に成候掌に張候故攘夷通商の為に

有之如く言路洞開人才御任用被為在候

御則を出候て薩州藩に

大将軍職を断然攘夷に大命を奉戴し

被遊候勿論事至国体姑息

皇民離隔に成候も如此に成候歟重大挽廻に相成候上

開国に成候ハ度毫無御座候に付微臣共

誠に恐多く国体を忠勤致し為抽御命を王事に勤仕候

仕筆於

被遊候哀憐御当時の為攘夷の為遠近に

仕合に成候事

幕府に告知致候に付

唯に攘夷大義を以朝廷百万一

皇命を妨げ私意を企て者に於ては仮令有司少人たりとも御容赦

被遊建責仕候一偏に変化に成候不顧威厳に成言上仕候

御聞届被成下微臣共に於ては天地に懇願仕候誠惶誠恐頓首再拝謹言

文久三年癸亥二月

浪士連名

同四月日

佐竹左京大夫

一豊臣秀頼宅に於て家康公[illegible]

[illegible]に付て市中騒動

一悪党共俳徊仕候ハ[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右通道中[illegible]

一 [illegible]諸侯人[illegible]二三男尾[illegible]十五
[illegible]上陸壯[illegible]書[illegible]紀[illegible]
人数[illegible]集[illegible]諸[illegible]
[illegible]書[illegible]

但遠国[illegible]

一 今度英國軍艦[illegible]曲[illegible]
[illegible]港[illegible]
[illegible]能[illegible]時[illegible]戦[illegible]
[illegible]

右通[illegible]

[illegible]港[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一　今度須港ニ庶橋ニ取掛リ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃ち未だ人古屋を復せず弓箭中国を亡ぼし[illegible]

[illegible]日月[illegible]

[illegible]乃ち文永三年正月、下向蒙古乃至元三年世宗皇帝乃勅使両人日本に
来朝[illegible]時、将軍八二郎惟康親王執権八北条相模守時宗[illegible]
則異朝より仲乃[illegible]と　禁遏[illegible]

上天眷命大蒙古國皇帝奉書日本國王朕惟
自古小國之君境土相接尚務講信修睦況我
祖宗受天明命奄有區夏遐方異域畏威懷德者不
可悉數朕即位之初以高麗無辜之民久陥鋒鏑即
令罷兵還其疆域反其旄倪高麗君臣感載來朝義
雖君臣而歡若父子計王之君臣亦知之高麗朕

之東藩也日本疆通高麗開闢以來亦時通和中國
至朕躬而無一乗之使以通和好尚恐王國知之未審
故特遣使持書布告朕志冀自今以往通問結好
以相睦以相親且聖人以四海為家不相通好豈一家
理乎以至用兵夫孰所好王其圖之

至元三年八月三日

此時蒙古国異国文通乃無往と怒たる[illegible]蒙古國号を大
元国と改め日本国と従へんと新設令法案と出大船小軍合二万人乃
船とお編大船九百艘[illegible]攻来る文永十年甲戌年対馬西海浦へ
蒙古と京大馬と乗出合[illegible]戦也[illegible]多勢と無勢敗軍[illegible]
主従乃ち[illegible]討死を[illegible]蒙古を[illegible]押寄[illegible]
[illegible]人景[illegible]戦い

頂く父子自害を宣ふ九州住人小卿豊前入道覚恵子息太宰少貳
経資法師子息駿河三郎等引率し地頭御家人と二子軍人
討死を遂げ叶はざる輩多し凡そ人馬の疲れ多くして
秋の終建治三年丁巳四月十五日大元の勅使五人長門国室津に
着く日本より大元に直参を遂ぐべきの旨を
責め申さるるの由を奏聞す薩摩国住人
乃至武藤資頼入道弥阿に於て五人
首を刎ぬ中書省御門に掛けらるるなり大元より
戒め弘安三庚辰年推参の勅使を斬首に行はるる
時使も猶会稽に赴かざるの故なり
よりて大元王大きに怒り四国
名を古来と云へども未だ聞かざる
軍旅なり実に十万人を用ひたりと
四国九州の軍兵八万騎
乃ち博多地先山陽道山陰道乃至王城を警護し
奉る

東山道山陰道乃至諸国を警固せしめ
国七月朔日大元の勅使軍兵雲霞の如く
乃津志賀島を警固す鎮西管領
数百里の海陸に陣を張る日本国
先陣を小卿豊前入道子息大宰少貳同次郎大宰大貳景資
大友一雲斎宗麟堂天草打浦河野の一族平戸牧峯を連ねて
其勢幾千二十万騎余なりと既に戦ひ始まる
陸地に於ては武士の輩と打掛り
軍し四国中国に引退く敵人猶
八月十八日大元乃至勅門日本国を
長門国と定め長門国防に押渡んと
時天俄かに大風吹き逆浪大に漲り雷電
霹靂を敵船に落かかる
播磨灘に打揚げ挑灯に
徹底して

逆巻浪に沈む数千万の生霊乃ち[illegible]
乃ち此大風あるべしんば日本乃人民如何ぞ[illegible]
災厄如何ぞ[illegible]
に沉が陣にありしとて日蓮宗の情愛奈羅乃功徳と[illegible]
と云ふべし[illegible]
今や西洋乃文明[illegible]
恭平日久しく武備乃怠るべきを悔る[illegible]
[illegible]大砲毎戦に寡し[illegible]
[illegible]上陸せしに彼[illegible]
毎軍を敗るべしば[illegible]
奈何にしい事あり此[illegible]
通[illegible]

上下に窮[illegible]
[illegible]
[illegible]
乃逆徒あり[illegible]
[illegible]
神君の英明[illegible]
せたまふや又[illegible]
[illegible]

一不肖に上性魯鈍[illegible]
慶喜技[illegible]
[illegible]

尊王

逆俗見

即[illegible]
[illegible]天下[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右面之[illegible]

同三月廿日

[illegible]

辞官上入道

中務少輔又

姉小路二位

岩倉

同女

少将内侍局

[illegible]

岩倉中将

[illegible]

姉小路中務少輔

同三月廿一日

[illegible]

[illegible]

落飾辞官[illegible]

永[illegible]

永[illegible]

遠島

永宰

[illegible]

中山大納言

正親町三条大納言

久我内大臣

掌侍

長橋局

[illegible]

典侍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
一[illegible]
二[illegible]

[illegible]

遠島　[illegible]

少尋[illegible]

[illegible]

[illegible]

押小路[illegible]
九[illegible]

日[illegible]
有[illegible]内[illegible]

日[illegible]
山[illegible]
永堂主[illegible]

九条前関白入道
[illegible]
千種前少将
[illegible]
[illegible]前中将[illegible]
[illegible]

六月十九日

一当月十日夜亜墨利加蒸気軍船上陸ス祇園[illegible]
大[illegible]
何[illegible]
[illegible]

松平大膳大夫[illegible]書

[illegible]六月十九日

松平大膳大夫内

小幡表　七

一当月十日夕異国船上陸ス当日豊前田野浦[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 一反
[illegible] 事度五拍 一疋
[illegible] 一疋
[illegible] 一疋
[illegible]

去九月京都 御[illegible]表に出羽道帝 御[illegible]
同十二月大[illegible]表 [illegible]遠江軍船[illegible]
[illegible]命に[illegible]

六月十六日

[illegible]表に[illegible]
[illegible]

右豊[illegible]

六月

[illegible]保[illegible]軍船[illegible] 還御[illegible]
[illegible]
右[illegible]高[illegible]
[illegible]

御[illegible]

右[illegible]

六月

[illegible]
御上洛[illegible]
還御[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

尾張藩老　源道生
豊後藩老
長州藩士
紀伊藩士
久留米藩士

一酒井雅楽頭殿御家来　上野之戦争ニ付　公儀ヘ
ゟ之書付　写

右ハ去ル廿四日　御用部屋ヘ
ゟ　酒井雅楽頭殿ヘ　上野之戦争ニ付　公儀ヘ
ゟ　御用部屋ヘ　酒井雅楽頭殿ヘ　両ヶ所ヘ
一別紙ハ　御用部屋ヘ　酒井雅楽頭殿ヘ　両ヶ所ヘ
一和蘭ゟ　開港之儀ニ付　公儀ヘ
ゟ　御伺書　写

六月

松平修理大夫ヘ　同書

一今般英仏軍艦横浜ヘ来港之節ハ　修理大夫ヘ
ゟ　知
右之去秋英仏海陸之兵横浜ヘ来港之節ハ　横浜三奉行ヘ　英人ヘ
対し　公儀ヘ　修理大夫ヘ　対し　公儀

二階堂　節
佐野順之丞

[illegible]
[illegible]
[illegible]

毛利家届書

因長崎帰港之義ニ付南蛮天門
出張仰付候　御用打揮者　上軍仕度旨
願出候ニ付　御用之儀ニ付　当六月朔日順出港仕候異国
船ニ相対仕候ニ付　御用之儀ニ付　当月朔日　御

注進申出候為自筆書面之趣ニ付而者中書ニ記家長
毛利安房守殿ニ対し奉書文を法令殺害中書
則書文を家ニ出し仕候段申上候而取鎮ニ成候
ことを以場所を行人ニ知不申候多人数出張有之異人数
逃去ニ付追人数差出し孔明人ニ対し情を尋ね
日之夜寄ニ到候英佛之軍艦八隻来候又ハ蒸気
一艘完成ニ付差出貢ニ付ハ
場所ニ寄迅速乱れ鎮撫ニ付
鎮撫迅速ニ付ニ寄易ク成ル
大砲打出時ハ
寄ニ付鎮撫ニ付追打ハ
軍艦ニ付会ハ大砲打出
報ニ付用信今尾京陣屋ニ出馬仕候家来異人ニ逃帆注進
出張仕候家来異人ニ逃帆注進者家来切捨ハ
以後ハ
出張仕候ハ
貢ニ付人数六百人金穀
ハ
重大之事件ニ付
此之所ニ
長門守計ニ付
蒸気船八隻
完成ニ付
孔明人ニ対し
情を尋ね
追帆注進
家来異人
逃帆注進
家来異人
追帆注進
家来異人
追帆注進
家来異人
追

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日日

上京御用

右於　御番所

御番所

澤井雅楽氏

大目付

松平図書守

目付

三方吏二郎

[illegible]

右新書面前日[illegible]寺中[illegible]寺中行届

日　朱印

[illegible]

[illegible]

右京都表[illegible]　御用[illegible]

御番所

澤井雅楽氏

[illegible]

[illegible]

右[illegible]寺[illegible]同[illegible]寺中行届

京都[illegible]

右京都表[illegible]御用[illegible]

右[illegible]

日文言

右[illegible]寺[illegible]

[illegible]

松平[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文久三癸亥八月廿日　河内守殿出張

山御堂御行ニ

柳澤甲斐守

堀田相模守

大和國之儀村山代官所幕府陣屋及礼所ニ者ハ取締方人数差出

可申旨仰出ス事

但市中ハ出張之者ハ当分之内ハ帰ス之儀ニ可相心得事

三條中納言

廣橋中納言

徳大寺中納言

右十八日ニ被仰出候間旨ハ当日御書面之儀ハ諸人ニ対面ニ及ハ

ス事

右之儀奏聞　清涼殿御内ニ　重事御議堂上方ハ出殿ハ出ス事ニ

[illegible]

[illegible]

八月十八日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

信濃国
新潟
永代橋
新大橋
両国橋
佃島
東橋

松平右近将監
松平伯耆守
松平信濃守
水野和泉守
内藤大和守
堀田上野介
井上筑後守
細川大和守
毛利伊勢守
竹腰主殿頭
佐野政恭

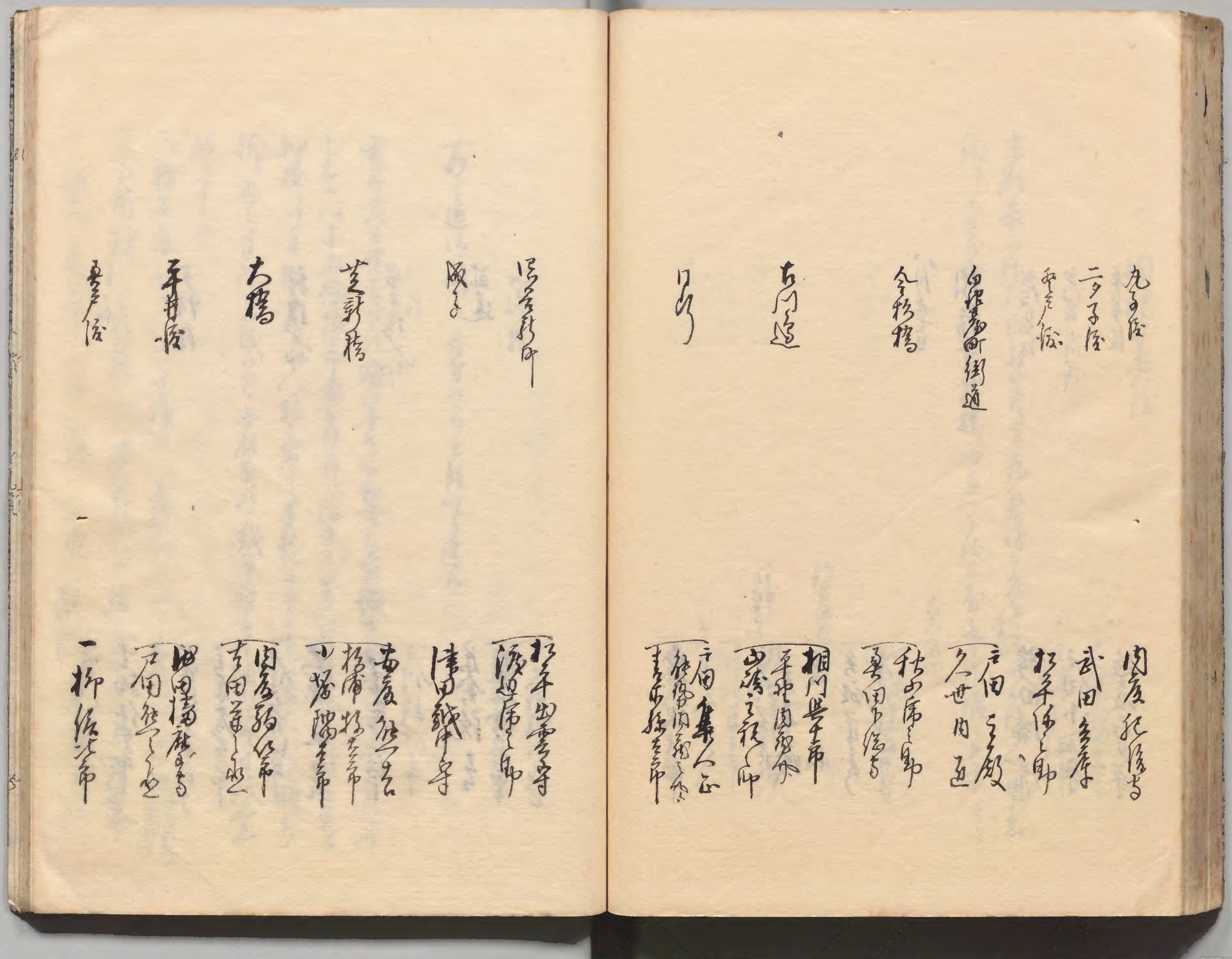
常陸
常陸
下野橋
駿河国
不住

宮城左京亮
牧野遠江
織田主殿頭
安藤新六郎
東川内匠頭
松平東海守
織田信濃守
松平新六郎
松平助十郎
田井石見守

[illegible]

[illegible]

[illegible]



行住

[illegible]

[illegible]

[illegible]

節遠

一

文政[illegible]

[illegible]

[illegible]

一陸奥　出羽六　一越後　一佐渡　三枚

[illegible]

九月二日

[illegible]

遠江守殿江渡書付

三條西中納言
三條中納言
[illegible]
[illegible]
四條　[illegible]
[illegible]
澤[illegible]

右七人去月十八日[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

仙台藩家老職ニ付ス

右之通被申渡候ニ付 仙台藩ニ而ハ上使ニ而ハ

九月

一 元中山侍従吉之丞中奈良屋伝左衛門上使ニ而ハ

人之者ニ而ハ如和歌之儒之一揆中山中將殺ニ中山侍従ニ対

名家無譜ニ而業有ニ由ニ付

御使之者ニ而ハ留ニ而ハ別而御名目ニ而ハ

官位を称 著名ニ付 御使者

御使者ニ而ハ留ニ而ハ 軍家ニ而ハ 紀州様

御使者ニ而ハ 軍家ニ而ハ 松平伊豆守

御使者ニ而ハ 軍家ニ而ハ 井伊掃部頭

右之通被申渡候ニ付 仙台藩ニ而ハ一同ニ

一 今般仙台藩ニ而ハ藩内ニ而ハ

義士徒ニ者ニ而ハ 切腹ニ付

暇願者ニ而ハ 御使者ニ而ハ

右之通被申渡候ニ付 仙台藩ニ而ハ一同ニ

一 先年遠島ニ付 一揆騒動ニ付 不届ニ付

家禄没収 討ニ付 義ニ付 捷報ニ付 御使者ニ付

活ニ付 慶ニ付 第四ニ付 安産ニ付

寸刻ニ付 打ニ付 御使者ニ付 出産ニ付

中将ニ付 仙台ニ付 長崎ニ付 時ニ付 再度ニ付

右之通被申渡候ニ付 仙台藩ニ而ハ一同ニ

甲斐守松平肥後守ヲ松平上総介達　　御使ヲ以被遣ル
寺安　　殿ヨリ松平右京亮ヲ以
万石ヲ毛利右馬頭ヲ以　　被遣ル

九月四日

京都ヲ武人秘密ヲ守ル

一風聞事ヲ聞ヲ国公用旋ヲ出延引ニ被成南都ヲ吉野ヲ之分
御尋ニ　　御事ヲ聞ヲ又ヲ国分ヲ公儀ヲ被延ヲ国ヲ公ヲ
天皇ヲ御ヲ出ヲ浦松ヲ御ヲ出ヲ人ヲ　　御日ヲ今ヲ被ヲ十七日ヲ
御所ヲ取巻ヲ三條殿ヲ被打廻ヲ今度ヲ出ヲ
元禄ヲ松平右京亮ヲ寄ヲ新ヲ京ヲ被遣ヲ　　十八日ヲ御留
一十八日今度ヲ国ヲ　　御出ヲ
勅ヲ　　朕ヲ言ヲ
天和元年

一法度ヲ新ヲ今度ヲ出ヲ
知恩院ヲ寺ヲ
一日日蓮宗ヲ
以ヲ
一同日大和ヲ
大和橋寺ヲ
一京近ヲ
一中山大納言殿ヲ
甲冑ヲ
一廿三日長冊ヲ
一冊ヲ

長州と可成との儀御停止の旨被仰出京・江戸表
遠ざけ候ハヽ　御上洛御執奏の事有之候ハヽ
公儀御京都とも是迄之通全く
天皇ゟ仰付候御名押付ハ
御停止ニ寄御和平ニ相成候事
方々遣和兵ニ而ハ無之候御名ハ
主上ゟも長州へ懇勅を以
仰付被遣候由

京都風説書

一八月十八日南部春日伊勢
長州勢　御筆紙ニ而ハ御和平
ゟ名ハ　無之　関東
全く　主上ゟ異議無之関東

幕府ゟ
御執成ニ而御攘夷
御執成ニ長州ハ無事御
方ゟ相過ぎ
主上ゟ御会合ニ全く関東御成ニ異議ハ無之長州ハ過
ぎ
ニ而　御停止ハ全く不異ニ
方ゟ　御命令ニ成ニ十八日ニ御用宮
長州ハ老中ハ浮田主殿ハ
ゟ遣ハ
御使ハ　ハ
地ハ御ハ

御愛宕ハ金陵ハ　御命令ハ
御停止ハ長州
関東ハ
長州ハ過ぎ

全く
御停止ハ
御使ハ
安藤氏ハ浮田
京

金陵ハ
御所ハ
御使ハ
長州ハ
月十八日ハ
御使ハ
金陵ハ

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

一 [illegible]大御言[illegible]出[illegible]男[illegible]時長[illegible]出張[illegible]長[illegible]出張
排撃[illegible]
[illegible]

九月十八日 [illegible]遠[illegible]守[illegible]書[illegible]

一 此十七日[illegible]三[illegible]月[illegible]言[illegible]動[illegible]出方[illegible]一日[illegible]代[illegible]
[illegible]人[illegible]芝[illegible]人[illegible]
[illegible]人[illegible]多[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]
八人捕押[illegible]
押[illegible]
中[illegible]

五百[illegible]人[illegible]出張[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

九月十八日

[illegible]

一 天[illegible]十[illegible]四[illegible]村[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

丈永年紀中九年作り

[illegible]

仍而[illegible]

探索[illegible]

九月廿三日

右之通毎年相渡之上ハ暫く元金之内

遠江国敷地郷書付

一百石内外長谷寺領分貸金ニ付申出候者共由緒之儀ハ人々聞糺
候ハ、其時々之世話掛ハ勿論其外ハ出入之者共ハ其時之
役人ニ相尋ね可申聞候事

右之通毎年相渡ハ如今ハ関東ニ而名目ハ由緒之儀
人数ハ門長者掛ハ勿論ハ其時之役人
御用之儀ハ長谷寺ハ勿論ハ其時之者
ニ一人別ニ相渡ハ無之ハ由緒ハ

以前又ハ元来願ニ相渡ハ長谷寺領分ハ門長者掛
出来ハ名目付ハ相渡ハ勿論ハ
相渡ハ自今ハ毎年ハ月書付ハ
出来ハ月ハ胡乱者ハ掛ハ
対談ハ門長者ハ勿論ハ
配当ハ世話掛ハ
長谷ハ
右之通百石内外ハ相渡ハ
毎年ハ由緒ハ
自今ハ如ハ
右之通百石内外ハ

九月

[illegible]

十二月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二月

[illegible]者共九人[illegible]

[illegible]

甲子二月十五日

松平能登守殿

留田仁左衛

御上洛江船名並諸侯江[illegible]船

御雇船

江船

〃

〃

松平肥前守江船

翔鶴丸

朝陽丸

順動丸

播龍丸

観光丸

松平[illegible]守〃

大鵬丸

松平出羽守〃

八雲丸

松平能登守〃

千秋丸

〃

セヒラセン

松平越中守〃

黒龍丸

南部屋日
加州屋日
日
十三艘

廣運丸
君澤丸
外七艘

一 文久三亥年十二月廿七日田安殿
御家船出帆夜ゟ品川沖ゟ出船 廿八日六ツ半時ゟ出帆 昼時ゟ
浦賀表ゟ出船 内上総之文今小舟ゟ石炭ゟ乗
猟 御役船ゟ日本ゟ出船 廿九日朝ゟ昼時ゟ日本出帆
帆十ヶ所ゟ引揚出船 海上荒風波荒く伊豆七島ゟ九ツ
宝屋ゟ取り入 逆風ゟ難渋 出帆 昼時ゟ田浦
御上陸 御役船ゟ出船 内上総ゟ出船

内逆出船 文久四年甲子正月元日 宝沢出船
出船 ゟ出帆 内上総ゟ出船 昼時ゟ
為 ゟ 大砲打 内上総ゟ出船 当帆二十里程走り
風波荒く逆風ゟ遠州灘 又ゟ田浦 帰船 三日
風強く出船 逆風ゟ難渋 出帆 昼時ゟ出帆
二十里程走り 逆風ゟ難渋 出帆 昼時ゟ出帆
九ツ時ゟ逆風ゟ難渋 遠州灘ゟ 出帆
羽浦ゟ 三ツ石 稲荷 伊豆 七十五里程走り
出船 海上荒 ゟ 出帆 七ツ時ゟ
熊野浦ゟ 二木浦島 南無浦 逆風
風ゟ 地蔵ゟ 九十九浦ゟ 七ツ時ゟ
磯 出帆 一泊 四ツ七日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan